



1. 理事会と評議員会を開催

8月22日に第40回理事会を都内会議室にて開催しました。当日は、全国から30人の理事、3人の監事、計33人の出席となりました。若林紀男理事長が議長として進行役を務め、第1号～第10号の全ての議案につき、原案通り承認可決されました。



第40回理事会の主な議案は、「評議員候補者」「理事後任候補者」「定款変更」「2022年度事業報告」「2022年度計算書類」「2023年度収支予算書一部修正」「2023年度専門委員選任」の件、などでした。

また、9月7日には第15回定時評議員会を開催しました。今回の定時評議員会は台風接近の

影響を懸念し、ハイブリッド形式で開催されました。全国から評議員25人（うち4人がオンライン）、役職理事6人と監事3人が出席しました。定款により、評議員会の議長は、出席評議員の中から選ばれることになっており、第2750地区の猿渡昌盛評議員が議長に選出されました。

猿渡議長の進行で、報告事項として、①理事会決議報告 ②職務執行の状況報告 ③2022年度事業報告が資料に基づき説明され、続いて理事会から上程された「評議員の選任」「後任理事の選任」「定款変更」「2022年度計算書類承認」など7議案が諮られ、全て原案通り承認可決されました。また、評議員会終了後、4年の任期を終える評議員に、若林理事長から感謝状が贈呈されました。



2. 学友の力を母国に還元 「教育プログラム」開催

8月26日、マレーシア米山学友会の主催で、第1回「MRYA（マレーシア米山学友会）教育プログラム」がオンラインで開催されました。このプログラムは、同学友会会員の個々の知識や技術を社会に還元していくこと、受講者に社会貢献への意識を高めてもらうことを目的としています。

今回は「日本語をボランティアで教える人材育成」をテーマに、日本の総合商社で18年勤務し、10年以上にわたってマレーシアの学生に日本語をボランティアで教えている経験豊富なチンワエンサンさん(1994-96/東京国分寺RC)



オンライン授業を終えて記念撮影

が講師を担当。参加した20人の受講者に向けて、「どのように学生の興味を惹くか」「どのように学習意欲を引き出すか」「どのようにリーディングやスピーキングの技術を習得させるか」など、日本語を教えるために必要な基礎スキルについて約1時間半の講義を行いました。マレーシアの中学・高校には日本語クラブが多数存在しており、同学友会では、「日本語学習や日本文化への興味関心が強い学生たちの力になりたい」という思いで精力的に活動を行っています。

3. まもなく米山月間資料が届きます (9/20 発送)

10月はいよいよ米山月間です。今年も米山月間資料を全国の皆さまへお届けします。

毎年恒例の『豆辞典』は、米山記念奨学事業についての情報がほぼ網羅されている小冊子です。会員数分お送りしますので、ぜひ1人1冊お手元にお持ちください。豆辞典を使って米山奨学事業を説明するためのパワーポイントは、

9月13日に当会HPでも公開しました。そのほか「クラブ米山記念奨学委員長の手引き(寄付金マニュアル合併版)」「2022年度事業報告書」「2022年度決算報告」を送付します。追加資料のお申し込みは、同封の「追加資料申込書」に記入の上、お送りください。

4. 寄付金速報 — 10月の米山月間に向けて —

前年同期比

+ 36.5%

普 - 2.6% 特 + 113.6%

8月までの寄付金は、前年同期と比べて36.5%増(普通寄付金:2.6%減、特別寄付金:113.6%増)、約1億670万円の増加となりました。当会は内閣府

より「公益財団法人」の認定を受けており、当会への寄付は所得税、法人税の税制優遇が受けられ、相続税も非課税となります。今年度からは、特別寄付金が新たに50万円に達した方へペンバッジ(銀色)を贈呈します。10月の米山月間も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

5. モンゴルの地で感じた米山奨学事業の成果

先月5日に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」では、多くの学友とロータリー会員が再会を喜びあう場面が見られました。今回は、モンゴルの地で学友と「再会」を果たした会員の話を紹介します。

7月1日、国際ロータリー第2680地区淡路三原RCの国際奉仕委員長を務める奥井正造会員が、モンゴル米山学友会のパグワ・ボヤンジャルガルさん(2016-19/淡路三原RC)を訪ねるため、5人の会員と共にモンゴルを訪れました。

奥井会員とボヤンさんとの出会いは、同クラブが2016年に世話クラブとなったこと。当時、日本へ来た理由を尋ねると、「博士号を取得して保健師になりたい。モンゴル人は朝昼晩ずっとお肉を食べるため、中高年になると肥満になり、長生きできない。医療の力で生活習慣病を改善し、モンゴル人の平均寿命を5歳延ばしたい」とのこと。この志の高さに感銘

を受けた奥井会員やクラブ会員たちは、その時からずっと彼女を熱心に応援してきました。

そして今回、奥井会員はモンゴルでボヤンさんと再会。時間を忘れるほど話が弾んだそうです。招待されたボヤンさんの家では、お母さんがとても嬉しそうに出迎えてくれ、家族勢ぞろいで机いっぱい料理が並び、盛大な会となったそうです。

帰国した奥井会員は、「私は、日本で自らの力を高め、自国の発展の力になりたいと志す奨学生を応援することが米山奨学事業の醍醐味だと考えています。その成果をモンゴルで見せてもらえました。学友会に入会し、日本との絆を保とう

としていた学友たちの健気さが心に響きました。そして、私たちロータリアンが思っている以上に、学友のご家族は米山奨学事業に感謝しているんだな、と感じました」と、ボヤンさんたちと過ごした時間を振り返りました。



ボヤンさん(後列左端)宅で歓迎を受けた奥井会員(中央左端)